

# 原水爆禁止2010年世界大会

## 報 告 書

原水爆禁止2010年世界大会・広島の閉会総会には8000人が参加、核兵器廃絶条約の交渉開始を求める声をさらに大きく広げようとよびかける広島決議を採択しました。三八地区からは、畠山洋子さん(青銀労組)と梅津諒さん(八戸医療生協)が参加しました。大会で呼びかけられた「被爆者の祈りと誓いを共有してください。一緒に歩み続けましょう」という被爆者の声をみんなで受け止め、核兵器廃絶の草の根の活動をこの地域でもいっそう強めたいと思っています。

6月の国民平和大行進と8月の原水爆禁止2010年世界大会に際して、多くの皆様から賛助とご支援をいただいたことにあらためて感謝を申し上げます。この報告書は、世界大会参加者の報告と平和行進の記録をまとめたものです。どうぞご一読下さい。引き続きご支援お願いします。

皆様のますますのご清栄をお祈りいたします。

2010年11月

八戸原水爆禁止の会 会長 内田弘志



2010年夏・原爆ドーム(梅津さん撮影)

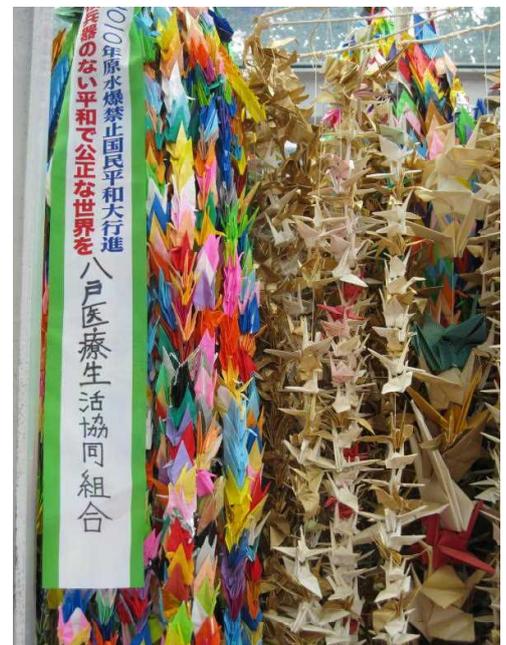
8月4日、市電に乗り、原爆ドーム前に向かいました。原爆ドーム前駅を降りて、最初に現れたのは世界遺産「原爆ドーム」でした。爆心地にとっても近いこの地域で建物が残ったのはほんのわずかであり、この原爆ドームを見れば現在でもその威力のすさまじさを感じることができます。それは、ガレキを撤去せず、ほぼ当時のままの状態で作られているからです。そのため、そこだけが時代に取り残され、周囲とは違う雰囲気を感じているようにも感じました。過去にあった悲劇・過ちを繰り返さないため、事実を風化させないためにこうした場所が残されていると思います。午後からは原水爆禁止世界大会に参加しました。平日にも関わらずたくさんの人が集まっていました。それは、5月にニューヨークで開かれたNPT再検討会議での採択が非常に画期的であり、その採択されたものを更に深め、今後の私たちの運動を更に活発にさせるためにはとても重要な会議になるからだと思います。

開会総会でも冒頭にそうしたことが目標として掲げられ、世界の情勢が変わってきていることが報告されました。坪井直さんという被爆者の方も登壇され、自身に降りかかった出来事を話してくださいました。当時、20歳だったその方は、原爆で吹き飛ばされ両耳がちぎれ、皮膚が焼け落ち、意識不明の重体となったそうです。それでも奇跡的に助かったその方に今度は原爆症の魔の手が襲い掛かりました。再生不能の貧血症、癌、そして心臓発作です。様々な病を併発しながら、なんとか生きてこられたのですが、今度は網膜が悪くなって昨日退院したとのこと。しかし、そんなボロボロの体になってしまっても、核廃絶と平和を願う自分の気持ちを知ってほしい。そして、必ず核兵器のない平和な世界を作ってほしいという願いを実現させるためにここにいるのだと言っておられました。亡くなった方々のためにも、この目で核廃絶を見るまでは死ねないという言葉が胸にしみました。

今回のNPT再検討会議で一筋の光が見えた今だからこそ、こうした被爆者の方々の言葉をもっと聞き、その体験談を様々な人々に伝えていくことが大切であり、私たち若者がもっと身近な問題として捉えなければならないのではないかと感じました。

最終日は平和記念式典に参加してきました。参加といっても、式典の会場には限られた人しか入ることができませんので、私たちは、モニターを見たり、遠くから式典の会場を見て参加ということになりました。今年はアメリカの駐日大使が初参加するということで、メディアにも大きく取り上げられましたが、アメリカだけではなく、NPTを締結している核保有大国から参加者が出るという画期的な式典となりました。さらに、

国連のパン・ギムン事務総長が始めて参加されたことと、広島市の秋葉市長による平和宣言が素晴らしかったことも画期的でした。式典では、原爆投下時間の8時15分に参列者全員で犠牲者への黙祷を捧げました。その後、パン・ギムン国連事務総長が発言されました。私たちは今、この神聖な場所に身を置き、自らの目で見て、感じ、吸収し、そして深く



考えます。こうした言葉から始まった彼の挨拶は素晴らしかったです。命は短くとも、記憶は長く残ります。被爆者の証言を世界の主要言語に翻訳する等、学校での軍縮教育を行い、地位や名声に値するのは核兵器を持つ者ではなく、これを拒む者であるという基本的な真実を、私たちは教えないといけないのです。この発言は、被爆者への哀悼の念だけを表すのではなく自分たちでそうした体験を後世に伝えていかなければならないのだということを、具体的な方法まで出して言っています。私は正直、国連がここまで核兵器廃絶のことを真剣に考えているとは思っていませんでした。それは、今まで国連がおこなっている活動が全く見えずにいたからです。しかし、平和記念式典での事務総長の発言や、その前のNPTのニューヨーク行動のときの発言は、本当に画期的なもので、国連が私たち(草の根の運動)とようやく同じ方向に歩み出したとを感じるものでした。

そして、このスピーチの後に、秋葉広島市長の平和宣言が高々と宣言されました。アメリカ、ロシア、中国、イギリス、フランスといった核兵器を保有している5大国の代表と、国連事務総長、そして内閣総理大臣がいる前でこの発言には本当に感動しました。平和宣言はこのような目にもう誰もあわせてはいけない」という強い決意を示す形で始まり、NPT再検討会議での決議を評価しました。こうした内容に加え、日本政府と内閣総理大臣の言動に言及し、それを追及したことにありました。今こそ、日本国政府の出番です。核兵器廃絶に向けて先頭に立つために、まずは、非核三原則の法制化と核の傘からの離脱、そして黒い雨降雨地域の拡大、並びに高齢化した世界全ての被爆者に肌理細かく優しい援護策を実現すべきです。という発言と、内閣総理大臣が被爆者の願いを真摯に受け止め自ら行動してこそ「核兵器ゼロ」の世界を創り出し、ゼロの発見に匹敵する人類の新たな一項を2020年に開くことが可能になります。核保有国の首脳に核兵器廃絶の緊急性を訴え核兵器禁止条約締結の音頭を取る、全ての国に核兵器等軍事関連予算の削減を求める等、選択肢は無限です。この2つの発言を本人と世界の代表、また国連の事務総長がいる前で行ったことに素晴らしさを感じました。

これに対し、平和記念式典が終わった直後の菅総理の発言を後で聞き、私は愕然としました。「核抑止力は引き続き必要」これだけの宣言を目の前でされ、国連や世界の流れが傾いてきているのに、この運動を牽引するリーダーにならなければならない日本の首相がこれかと怒りを覚えました。国民の運動でこれほどまで、世界の流れを変えてきた私たちの運動が、政府の行動と発言を変えられていないことに歯がゆさを覚えましたし、これからの私たちの一番の課題ではないかと感じました。

閉会総会では核兵器をなくすための活動報告だけではなく、なくしていく方向での積極的な発言が多かったように感じました。

私は、広島で多くのことを学びました。原水禁世界大会は終わりましたが私たちの活動は終わりません。被爆者の方々が生きておられる内に、そして私たちが生きているうちに、未来の子どもたちに誇れる日本を、そして世界になるよう活動を続けていきたいと思います。



## 原水爆禁止世界大会に行ってきました

青森銀行労働組合 畠山洋子

しばらく前からこの大会へ行ってみたいと思うようになり、この暑い中、広島に行ってきました。そして、何故か、広島にいる間に来年は広島から長崎に行きたいと思うようになりました。そう思えるほど大切な日々を過ごすことができました。

### 8月3日（火）

新幹線、飛行機を乗り継ぎ広島に着きました。暑い！！早く部屋にと地図をみながらホテルを探し、ガイドブックでは駅から徒歩3分と書いてあるのに30分位もかけてやっと見つけました。まず、部屋で一休み。

夕食は青森県代表团の方々と交流会です。青森県からは17名の参加で、全員が初めてということでした。若い方の参加が多かったのは驚きでした。それぞれ自己紹介をして和やかな雰囲気です。いろいろ身近な話題を話し合い、交流を深めることができました。

### 8月4日（水）

午前中は原爆資料館や戦跡めぐりです。ホテルを出発し、路面電車で平和公園へ到着しました。被団協（原爆被害者団体協議会）の方に平和公園を案内していただきました。平和の鐘－原爆の子の像－原爆死没者慰霊碑－原爆供養塔－広島平和記念資料館－原爆ドームと歩きました。

原爆の子の像のところにはたくさんの千羽鶴が捧げられています。2歳で被爆した佐々木貞子さんは12歳で白血病のため亡くなりました。佐々木さんの同級生たちが原爆症で亡くなった貞子さんとすべての子供たちの死を悼み作られた慰霊碑です。原爆症の怖さはいつ発病するかわからないところだと被団協の方が言っていました。

原爆供養塔には被爆して亡くなった方を茶毘（だび）にふし、スコップ一杯の遺骨を一人分として、身内が見つからないものや身元がわからないもの約7万柱が納められているそうです。

一つ一つの説明に戦争の悲惨さが心に重くのしかかってくるようです。

午後は広島県立総合体育館グリーンアリーナで世界大会の開会総会です。プログラムにそって、主催者報告、被爆者代表、秋葉忠利広島市長、外国政府代表と挨拶がありました。海外報告と全国の草の根運動から「一人一人が行動すると大きな運動になる」「核兵器のない世界ができると信じる」「軍事力にたよらない恒久的な平和を築くために共に頑張りましょう」と報告がありました。開会総会は7400人の参加でした。

その後、午前中に行った平和祈念資料館にもう一度行きました。資料館では被爆者の遺品、当時の写真、佐々木貞子さんが回復を祈って折り続けた鶴の折り紙、被爆者の詩などが展示されています。じっと見ていると被爆者の痛み、悲しみ、怒りが伝わってくるようです。これらを見た人は、誰もが自分の子供や孫にこんな思いはさせたくないと思うのでは…思わない人はいないはずだと感じ



ながら資料館を後にしました。

8月5日（木）

今日は分科会の日です。私は「憲法9条を生かした非核平和の運動」という分科会に参加しました。路面電車に乗って会場である広島YMCA 2号館に行きました。150名以上の参加があったと思います。事前に申し込みしていなかった人たちも当日参加が可能とあって、主催者側は追加の椅子の設置や弁当の受付に苦労されていました。

分科会は日本宗教者会議の真宗大谷派東本願寺住職の森修覚さんの司会で始まりました。運営委員の磯崎四郎さん（全教書記次長）の問題提起、大久保賢一さん（日本反核法律協会事務局長）の「憲法9条を生かした平和外交とは何かーNPT再検討会議での非同盟諸国の奮闘と日本外交の課題ー」、海外代表からの報告、参加者からの報告と続きました。

参加者は若い人たちから高齢の方々まで幅広く、小さい子供を連れて家族で参加している人もいます。また、何十回も来ているという元気な高齢の方もいます。活動報告と分科会の意見を紹介します。

- ・待っていれば平和が来るのではない。平和は作っていかなければならない。
- ・核兵器は人間が作ったもの。人間がなくすこともできる。
- ・子供たちに戦争を体験させてはならない。
- ・被爆者の話を聞き取り語り継いでいかなければならない。
- ・となりにいる人を大切にする。
- ・ひとりぼっちのお母さんをつくらない。
- ・子供たちの笑顔がみられる社会を。こちらから声がけを。
- ・危険な改憲の動きが強まっている。
- ・核抑止論に対抗するために学習しなければいけない。
- ・いま自分が出来ることを考えて行動する。
- ・小さな行動でも大河の一滴。大きな流れになると思って行動する。
- ・自分自身が騙されないように情報を処理していく能力を高める。
- ・地域住民、特に若い人達と一緒に活動していかなければならない。

憲法9条だけではなく13条、25条等は自分が置かれている立場からの発言もあり、憲法を生活の中に生かしていくことが大切であり、これから学んでいかなければと思いました。署名集めでは2町内をローラーして歩きました。高校生など若い人達も署名していただきました。広島ではいろいろなピースグッズを地場産業で販売しています。地域の活性化にもなると思いました。

分科会では、日常生活の中で9条ファッション（Tシャツ、ペンダント、バッチ等）をしているという報告もありました。発言する人が自らの活動に自信を持っているようで圧倒されそうでした。自分も大河の一滴になりたいと思いました。

この後、ひろしま美術館（広島市中区・広島中央公園内）に行ってきました。ここは創業100周年を迎えた広島銀行が地域とともに歩んだ歴史の記念事業として設立したものだそうです。

“愛とやすらぎのために”をテーマに広島の礎となった原爆犠牲者の方々への鎮魂の祈りと平和への願いが込められています。運よく「いわさきちひろ展」が開かれていました。絵からは「世界中の子供みんなに平和としあわせを」というちひろの気持ちが伝わってきました。

8月6日（金）

今日は被爆から65年にあたる原爆の日です。広島では平和祈念式典が開催されます。バスで平和公園に着くと、すでに大勢の参加者が全国から



集まっていました。記念式典が始まり会場から広島市長による平和宣言、子供代表による「平和への誓い」が読み上げられました。そして午前8時15分には平和の鐘が鳴り響き、参加者全員が世界の平和を願って黙とうしました。

青森県代表团と別れ、閉会総会<ヒロシマデー集会>へ参加しました。会場は開会総会と同じ場所です。国連代表からのあいさつがあり、そのあとに様々な意見発表がありました。

- ・核兵器廃絶という目標は世界中の人たちを団結させる。
- ・一人一人は微力だが、無力ではない。
- ・行動すれば世界が動く。
- ・人間が人間らしく生きる世界を。
- ・人間の命を奪う戦争には正義などない核兵器や軍事力で平和を守るという「抑止論」を打ち破るため、いまこそ大いに学び、国民的議論を巻き起こしましょう。被爆者と若いエネルギーを結集し「核兵器のない世界」の実現に向けて前進しましょう。ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアヒバクシャと広島からの呼びかけが採択されました。閉会総会には約8,000人が参加しました。会場では新日本婦人の会（新婦人）による手作り作品、本、おみやげなどの販売もあり大変なにぎわいでした。

会場を後にして広島城へ行きました。ここはかつて旧日本軍の大本営があった場所です。近くには中国軍管区司令部の防空作戦室跡もあります。

平和公園に戻り、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を訪れました。ここにあるモニュメントは原爆投下時刻である「8時15分」を表しています。水を求めて亡くなっていった被爆者を弔うために噴水があり、周囲には被爆瓦が配置されています。原爆死没者の氏名と遺影を公開し、大勢の犠牲者が出た事実を伝えています。また、被爆体験記朗読会も行われていました。朗読を担当していたボランティアは、この資料を持ち帰って運動に役立ててほしいと話していました。

※菅首相の二枚舌

「核兵器をはじめとする大量破壊兵器の拡散の現実もあり、核抑止力は我が国にとって引き続き必要である」。8月6日の平和記念式典直後の菅首相の発言です。「核のない世界」を望む世論に冷水を浴びせ、被爆者をはじめ広島では怒りの声が広がっています。「広島宣言」を読み上げた秋葉忠利市長は「核の傘」からの離脱を日本政府に求めました。その願いに対する答えが「核抑止力は必要」というものです。菅首相のいう「核抑止力論」に立てば、「抑止」の名目で核兵器使用の対象とされた国が、同じ論理で核兵器を所有することにもなります。「核兵器のない世界」を実現しようとするなら「核の抑止力は必要」という立場から抜け出す以外にありません。

8月7日（土）

いよいよ今日は帰る日です。広島県立美術館に行きました。「広島から広島ドームが見つめ続けた街展ー」が開催されていました。1915年に建設された広島県産業奨励館（現在の原爆ドーム）は、当時の大都市廣島のシンボルでした。街展では被爆から戦後の広島まで65年の歴史を写真、絵画、服飾など多岐にわたる資料でたどっています。広島県出身の画家・平山郁夫の「広島生変図」は赤く燃え上がった広島を描いていて印象的でした。

8月3日から7日まで猛暑の広島でした。暑い暑いと言いながらも原爆が落ちた日はもっともつと暑かったろうにと思い、被爆された人たちの痛み、家族を失った人たちの哀しみを思いながら歩いていました。原爆の痕跡を街中に見て歩けるだけ歩き心に留めておきたいと思いました。汗だくになるので首にタオルをまいて毎日歩きました。夕方ホテルに戻ってきたときにはくたくたになっていました。

今年は5月に核拡散防止条約（NPT）再検討会議がニューヨークの国連本部で開催されました。日本からも核兵器廃絶を求めてたくさんの人が署名を持参してさまざまな行動を展開しました。原水爆禁止世界大会には潘基文国連事務総長がメッセージを初めて寄せています。潘総長のメッセージを読んだ方々は行動に自信を持ち、さらに活動を広げていくと思います。

核兵器廃絶を求める世界の世論の高まりを反映して、潘基文国連事務総長は平和祈念式典に出席しました。式典へは昨年を10か国上回る69か国の代表が出席しました。これまで参加してこなかったアメリカも参加しました。核兵器廃絶の国際的気運の高まりを感じた式典でした。原爆の子の像には「これはぼくらの叫びです。これは私たちの祈りです。世界に平和をきずくための」という言葉が刻まれています。また、数えきれないほどの折鶴が捧げられています。折鶴は再生利用し手帳やノートを作っています。また、収益の一部は発展途上国の子供たちに再生ノートを送る費用として使われているそうです。原爆供養塔の場所では様々な宗教の人たちの祈りが捧げられています。また、原爆死没者慰霊碑には「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」と刻まれています。いろいろな場所に平和を誓った言葉が刻まれています。誰もが歴史に学んで核兵器のない平和な世界を願っているはずと信じています。戦争を体験したことのない私達ですが、平和ボケと言われぬように今まで以上に平和について考え行動したいと思い、広島からの帰路につきました。

島山さんの報告書の作成にあたっては、青森銀行労働組合のニュース(デジタルデータ)を利用させていただきました。



## 平和行進in三八

6月10日、東京ー北海道コース(太平洋)の2010年原水爆禁止国民平和行進が上十三地区から三八地区に引き継がれました。三八教育会館から八戸市庁まで合同行進を行い、市民広場で平和行進横断幕と各団体のリレー旗を引き継ぎました。集会参加者は164人、八戸医療生協から67人が参加しました。

上十三地区行進団の舩甚英文さんが、核燃料サイクル施設や米軍基地がある市町村をまわりながら平和行進への賛助・協力を得てきた取り組みを報告、三八地区からは内田弘志(八戸原水爆禁止の会会長・八戸医療生協副理事長)さんが、成果を受けつぎ発展させて岩手県に引き継ぐ決意を表明しました。全国通し行進者の鹿又静子さんは、とても元気な様子で、地元・東北の地を踏みしめて平和のために歩いていきたいとあいさつしました。「すべての国家が(中略)核兵器廃絶に向け、誠実に取り組みことを求め」る八戸市長のメッセージと行進団を激励する市議会議長のメッセージが紹介されました。

NPT再検討会議ニューヨーク行動に八戸から参加したコープあおもりの高橋かおるさんがニューヨークでの活動を述べました。「青い空は」を日本人学校の子どもたちに教えて一緒に歌い、子どもたちがみんな仲良く、平和にと話していたことを紹介しました。最後に「原爆を許すまじ」をみんなで歌い散会しました。



引継集会・NPT 再検討会議 NY 行動報告



引き継ぎ集会・医療生協のみなさん

6月11日の平和行進は、八戸市庁から行進を開始し、南部町、三戸町、田子町を行進しました。各町村で平和行進への賛助を要請、協力していただきました。

司法センターまでの行進は32人でした。南部町で立花寛子日本共産党町議と合流、町長と懇談しました。通し行進者の鹿又さんが、早春の北海道・礼文から初夏の青森まで、行進しながら核兵器廃絶を訴えてきたことやNPT再検討会議への署名提出のことを語り、町長さんからは激励を受けました。

三戸町では副町長さんと、反核運動の他にリンゴやお米の話が弾みました。

田子町で平和行進を行うのは初めてですが、歩いていると「県境産廃」運搬・処分(焼却・溶融、焼成等)の大型トラックが頻繁に走っていて、不法投棄された産業廃棄物の処理が今なお続いていることを知らされました。



南部町



南部町



田子町

6月12日、日ざしの強い中での行進となりました。五戸町では、赤坂町議(共産党)と現地で合流し、18人が行進しました。

新郷村に移動して、診療所で山岸村議(共産党)と合流しあいさつを受けました。足を痛めている山岸さんは車での行進になりました。終了地点の小公園でしばらく涼み、ハイキングのような楽しさでした。

昼食は三戸町の田岩食堂、17人でした。広くてきれいで、おいしかったので「来年は二日目も田岩で」という声がありました。

三戸町役場で、生協労連2人や生健会、青銀労組2人、青森市から来た全司法(4人)を含む10人と合流、30人近い隊列になりました。南部町の立花さんと行進途中で合流、昨日に続いての参加でした。

岩手県二戸市・金田一温泉駅前を行進して、13時50分に駅前広場に到着、岩手県の人たちのあたたかい拍手に迎えられました。引継集会で、横断幕、リレー旗そして通し行進者の鹿又さんを引き継ぎました。内田会長が青森の行進団を代表してあいさつ、私たちの運動が、NPT再検討会議に反映され、核兵器廃絶へと歩む意志を示す事務総長発言等につながっていることを紹介しました。その一方で、唯一の被爆国である日本政府が、「(核兵器廃絶のために)最大限に取り組む」という言葉とは裏腹に、前々目立った働きをしていなかったことを糾弾しました。岩手県側からは、岩手県がすべての自治体で非核・平和都市宣言を行っていることに触れ、「行進の成果を受けつぎ、県内行進成功のために尽力」する決意が表明されました。



五戸町



新郷村



新郷村



岩手県二戸市・金田一温泉駅前引継